



自治会活動推進ポスター 最優秀賞作品

ひたちなか市自治会連合会は、次代の地域づくりの担い手となる小学生を対象に自治会や地域活動への理解と参加を推進することを目的として、夏休みに自治会活動推進ポスターを募集しました。

地域の夏祭りや登下校時の見守り活動、清掃活動などを描いた全74作品が集まり、最優秀賞1点、優秀賞15点が選ばれました。最優秀賞には長堀小学校6年 佐々木 咲桜さんの作品が選ばれ、今後の自治会加入促進の啓発などに活用されます。

長堀小学校 6年 さ さ き さくら 佐々木 咲桜 さん



自治会活動推進ポスター表彰式

11月25日(土)に那珂湊総合福祉センターで、当連合会主催のリーダー研修会と併せて、自治会活動推進ポスターの表彰式が行われ、受賞者全員に当連合会会長から賞状と記念品が手渡されました。

当日、会場には最優秀賞・優秀賞作品の展示ブースが設けられ、受賞者と保護者の方が記念撮影を行いました。また、リーダー研修会に参加した自治会役員の方々も作品を鑑賞しました。

受賞した児童からは「表彰式が緊張した」、「来年もまた描きたい」などの声がありました。



「子どもたちに 思い出が残る自治会活動」



地域の絆・地域の力

安全・安心な地域づくりやお祭りなどの自治会活動は、子どもたちの楽しい思い出の1コマとして刻まれています。

自治会活動推進ポスター優秀賞作品



前渡小学校 4年
たかだ しょうま
高田 渉真 さん



前渡小学校 5年
かもしだ あおい
鴨志田 葵 さん



前渡小学校 5年
ごとう えま
後藤 笑真 さん



長堀小学校 3年
ささき ももか
佐々木 望花 さん



長堀小学校 5年
すずき みう
鈴木 美友 さん



長堀小学校 5年
すずき
鈴木 みくり さん



東石川小学校 2年
まつもと しおり
松本 葉 さん



東石川小学校 4年
まつもと あおい
松本 葵 さん



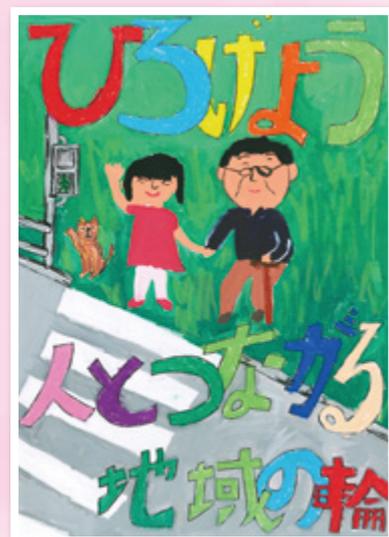
市毛小学校 6年
くろさわ ひより
黒澤 日和 さん



堀口小学校 2年
よしだ まゆ
吉田 真悠 さん



堀口小学校 3年
よしだ みゆ
吉田 心優 さん



津田小学校 2年
さいとう しずく
斎藤 汐凜 さん



外野小学校 3年
あおき れいか
青木 玲佳 さん



外野小学校 3年
たちばら
立原 さくら さん



那珂湊第二小学校 3年
しばぬま
柴沼 ころろ さん

自治会活動推進ポスター 審査会

9月21日(木)に市役所で、自治会活動推進ポスターの一次審査会を開催しました。当連合会広報委員長及び有識者3名の計4名で、応募があった全74作品の中から、優秀賞16作品を選出いたしました。10月5日(木)には、当連合会理事会で優秀賞16作品の中から、最優秀賞を決定しました。今回は、一次審査会で審査員を務めてくださいました村田伊佐夫様に講評をいただきました。

自治会活動推進ポスター審査講評

審査員 村田 伊佐夫

近所付き合いの活性を奨励する自治会活動推進ポスターの一次審査を行いました。

「遠い親戚より、近くの他人」と昔から、緊急時に大切な事とわかっていても、各家庭の生活リズムなどの違いからくる微妙で複雑を内包する問題となっているのです。

誰もが、何ごともなく、穏やかな日常生活を送りたいと願っているだけなのです。

ですから、とりあえず、近所には挨拶だけしておけば問題なしという関係が多い。

ポスターは、標語(メッセージ)と絵(図画)から成り立ち、描き出しから完成までに「どのように工夫して作成したか?」「この作品は、どのようにいいのか」「どの色を重視して描いたか?」文字の読み易さ、作品全体のまとまり、描写力、色使い、塗り方を読み取ります。

審査員は、各自、過去の経験、自身の全知識を傾けて作品と対峙しているのです。

「審査とは、作品を選ぶというより(作品から見られている)という気持ちで作品と向き合うべきである」という、福田仁先生の言葉を肝に命じて真剣に審査をさせていただきました。

審査員は、フォトグラファー 福田仁先生、デザインコーディネーター 西條友弥子先生、自治会連合会広報委員長 保永和勇さん、村田伊佐夫の4名で行いました。



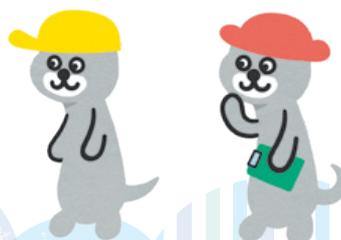
自治会活動推進ポスター 一次審査会の様子



最優秀賞・優秀賞作品の展示



11月4日(土)～11月5日(日)に産業交流フェアの屋内ブースにて自治会活動推進ポスター入賞作品の展示を行いました。来場された多くの方々に、力作ぞろいのポスターを見ていただきました。



リーダー研修会

11月25日(土)に那珂湊総合福祉センターで、リーダー研修会を開催しました。講師として「柏市地域協働を考える会」の会長 秋元康雄氏、事務局長 深津英雄氏を迎え、「時代の変化に合わせた自治会運営に向けて」の講演を頂きました。

地域協働を考える会とは、自治会長等の現役役員やOBが集まり公益活動団体として柏市内300余の自治会と行政とのつなぎ役を担い、自治会活動の諸問題を共に考え課題解決を図る団体です。

自治会運営は、防犯灯設置等のインフラ整備は減少し、人口減少・定年延長といった労働環境や個人の価値観の変化により地域を取り巻く環境が様変わりしていく時代に対応していく必要がある。ICT化の活用により自治会運営の負担軽減と情報の共有化を図り、他の市民活動団体やNPOとも連携を深め、現役世代や女性・学生等の多様な人材が参加できる自治会運営が求められるとのことでした。

オープンディスカッションでは、本市の東石川一丁目自治会、津田第三自治会、西原自治会からの活動事例報告があり、今後の自治会活動の参考となる事例がいくつも紹介されました。

自治会活動は、他団体と地域住民とのつなぎ役を担い、自治会活動の楽しいイメージづくりを図る大切さを認識した有意義な研修会でした。



防災訓練

神敷台自治会

感染症予防により、今年も自宅での初動訓練とし、役員会で作成した訓練マニュアルをもとに、8月26日(土)に「我が家の安全確認と事前の備え家族会議」を行いました。

また、役員と班長約30人は、自宅での初動訓練後、自治会館に参集して災害対策本部を設置、①避難行動要支援者安否確認訓練、②消火器による初期消火訓練、③自治会館及び防災倉庫の資機材と備蓄品の点検、④非常食の試食などを行いました。

避難行動要支援者に関しては、該当者がいる班長を中心に5つのグループを編成し、直接訪問して安否確認を行った後、防災資機材と備蓄品の点検・確認作業を行いました。

避難訓練は、地区内に2か所の市指定避難所があり、かつ危険箇所もなく個々に避難できる環境にあることから、実施しませんでした。避難困難者(介添えが必要な場合)への対応が今後の課題です。



コミュニティとの合同防災訓練

阿字ヶ浦自治会

8月26日(土)に「阿中学区明るく住みよい地域をつくる会」との合同防災訓練を行いました。

今年は、地域のコミュニティの活動拠点である阿字ヶ浦ふれあい交流館を本部とした、初めての防災訓練でした。9時に災害発生を知らせるサイレンを各自宅にて聞き、周辺の安全確認、近所への声掛け等を行った後、避難を開始しました。東日本大震災の発生時に課題となっていた、海岸付近に居住している高齢者を、実際に協力し合い災害本部へ避難誘導しました。また、フレキシブルタンクでの給水訓練を行い、水の大切さを実感しました。今後は井戸を持っている世帯の把握、協力依頼を実施していくこととしました。さらに、ヘルスケアセンター協力のもと、避難所におけるエコノミークラス症候群の予防策や熱中症対策などについて、介護福祉講演会を開催し、多くの方に参加いただきました。そして、炊き出し訓練も行い、充実した訓練が出来ました。

今後は防災訓練を実施する呼びかけの周知徹底、実施内容の充実を図り、新しいコミュニティ施設「阿字ヶ浦ふれあい交流館」をたくさんの方に利用してもらえるようにしたいと考えています。





地域の三世代交流を図る三大イベントの一つである「歩く会」を11月26日（日）に開催しました。西中根スポーツ振興会の主催で平成2年から実施してきましたが、コロナの影響で4年ぶりの開催となりました。

当日は、インフルエンザによる学級閉鎖があり、小学生の参加はかないませんでした。約80名の参加者がいました。西中根会館を出発し、湊線沿いを歩いて、中根駅、中根の湯、十五郎穴を通り、虎塚古墳で休憩後、鹿島神社を経由して西中根会館へ戻る約8kmのコースを完歩しました。

ゴールでは役員が準備した焼き芋や焼きそば、ポップコーンをもらい、健康的で楽しい一日となりました。



子どもふれあい館20周年



子どもふれあい館は、閉所になった保育所の跡地を利用した施設です。市毛南と市毛北の両自治会をはじめ、高齢者クラブ、子ども会育成会、各ボランティア団体などで構成された運営委員会を中心に活動しています。子どもの居場所づくり、子育て支援のためのふれあいの場、さらに一昨年からは三世代の交流の場として、サロン活動も実施しています。

開館から20周年を迎え、12月9日（土）には、記念式典及びクリスマス会を行いました。当日は、来賓及び関係者、地区内外から300人の定員を超えた沢山の子どもたちが訪れました。サンタさんからのプレゼントや輪投げ、ダーツなどのあそびのコーナーで夢中になって遊ぶ子どもたちの姿や、焼きそばや白玉ぜんざいなどを美味しく食べて、談笑する姿があちこちで見受けられ、それぞれが交流を楽しんでいました。近所付き合いの希薄化が進み、孤立や孤独などが社会課題となっていますが、地域のつながりのなか、子どもたちが健やかに成長できるよう、引き続き館の運営に取り組んでまいります。



長砂ふれあい秋祭り



コロナ禍により中止していた長砂秋祭りを、9月2日（土）に長砂公園で4年ぶりに開催しました。

開会式では、来賓の皆さんのご挨拶に続き、常会長や会場の皆さんによる神輿担ぎがあり、汗を流していました。

続いて長砂高齢者クラブ長生会や会場の皆さんが参加して三浜盆踊りを楽しみました。そのあと常陸大子連のチームによる迫力あるよさこいソーラン踊りと歌謡ショーが行われました。秋の夕暮れの中、プロ歌手の演歌に会場が酔いしれていました。多様なステージパフォーマンスのほかに、恒例のお楽しみ抽選会、模擬店では焼きそばや冷たい焼き芋、スーパーボールすくいなどいろいろな店が出店して賑わっていました。今回は地区内にある企業も模擬店を出店し、まつりを盛り上げてくれました。秋まつりとはいえ、真夏のような暑い一日でしたが、コロナ禍明けの楽しいひとときを大勢の人たちで楽しみました。





10月29日(日)にふれあいセンター前広場で、ふれあい祭りを4年ぶりに開催しました。

前日から役員や育成会の皆さんで、会場設営ならびに750食分の豚汁準備を行いました。この豚汁づくりは、自主防災の炊出しを兼ねた作業であるため、参加世帯に無料豚汁券を1枚配布しました。そのほか、模擬店として、生ビール、フランクフルト、お餅、飲み物を、育成会では輪投げ、スーパーボールすくい等を行い、メインイベントでのビンゴゲーム、お楽しみ抽選会では、子ども達がステージ周りに多く集まり、リーチ・Wリーチの黄色い声があり非常に盛り上がりました。抽選会では種々商品が用意され、最後の会長賞ではダイソン製コードレス掃除機が当たり、歓声があがる中、盛会裡に終了しました。

3年間のブランクがあり、一部の資料は残っていましたが、祭りの運営経験者がほとんどいない状態で、どうなるか不安の中だけに、無事終了できたことは役員ならび協力してくれた方々に感謝する次第です。



敬老会の開催



敬老者の皆さんが元気に集まり、顔を合わせ懇談して頂けたら良いという思いから、9月16日(土)に老人福祉センター大島荘で、3年ぶりの敬老会を開催しました。

今回はこれまでとは少し開催方法を変えて、参加者同士の交流をメインとしたサロン形式とし、あわせて多世代での交流を目的に、子ども会の皆さんにも参加していただきました。また、準備には役員のほか、班長や組長、保健推進員、民生委員の方々と総出で対応していただき、参加する皆さんをお迎えしました。

自治会長の挨拶で始まり、祝電紹介、市の高齢者の状況説明があり、対象者に市からの敬老祝い金と褒状が授与されました。参加者は久しぶりの会話や、小学生たちとのトランプゲーム、カラオケ等で楽しい時間を過ごしていただきました。お昼過ぎに、お弁当やポップコーン、お茶菓子をお土産にお開きになりました。次回は、さらに参加者全員が楽しんでいただける「敬老会」を計画したいと考えております。



大盛況の第18回しおさい祭り



11月12日(日)に美乃浜学区明るい地域づくりの会主催による、しおさい祭りが旧平磯小学校体育館で行われ、盛況のうちに終わりました。

当日は、肌寒い陽気にもかかわらず駐車場は満車となり、コロナウイルスを吹き飛ばす活気で、久しぶりに子どもも大人も笑顔満開となりました。ステージではフラダンス・マジックショーなど7つアトラクションが披露され拍手喝采を受けて大変盛り上がりました。

屋外模擬店も大盛況でした。出店団体は消防分団、美乃浜子ども会、文化・体育・環境・安全・青少年の各部会、自治会、事務局。メニューは焼きそば、綿あめ、あん餅、焼き鳥、カレーライス、ポップコーン等。18回目のしおさい祭りを堪能出来ました。



「移動博物館」がやってきた

つだ
津田コミセン地区

世界中の異常気象や地震の発生などから自然系博物館が注目されていますが、8月24日(木)から29日(火)の夏休み期間中、津田コミュニティセンターに茨城県自然博物館の「移動博物館」がやってきました。親子連れなど2,166名に会場いただき大盛況でした。

玄関で恐竜のお迎え、会場で博物館所蔵の恐竜の化石や岩石・隕石などの標本、動物の剥製、白熊の毛布などが展示され、津田地区の幼稚園・小学校・施設の子ども達とコミセン利用団体、地元蝶収集家の作品の展示協力もありました。子ども達は標本や作品に触れ、笑顔や驚きが広がっていました。いつか振り返った時に、それぞれの記憶に残った思い出として残ったら嬉しく思います。



地区運動会



ほんごうだい
本郷台

前渡地区では、10月8日(日)に勝田三中グラウンドで、5年ぶりの運動会が開催されました。全8自治会参加のもと、団体競技と個人競技を楽しみました。

当自治会では、今年度より子ども会が解散となり、会員、役員の高齢化もかなり進んだことから、地域の運動会への参加が懸念されました。運動会は、会員並びに世代間の親睦が図れる大切なイベントの1つであります。このことを踏まえ、役員間で議論し、不参加とせず、順位を競う団体競技に少しでも参加しようということになりました。選手集めには大変苦労しましたが、関係役員の鋭意努力により、全6種目の団体競技のうち3種目にエントリーができました。結果は意外にも最下位を免れました。成功裡に終わり、感慨もひとしおです。



紅白対抗による初の地区運動会

おおしま
大島コミセン地区

10月8日(日)に大島コミセン地区運動会が5年ぶりに開催されました。茨城国体による休止や、新型コロナウイルス感染拡大による中止と続いたため、今回は実行委員をはじめ、運動会に携わる方の負担軽減を図り半日開催としました。

また、自治会によっては運動会のたびに係員や選手の人選に苦慮しているところもあり、従来の自治会対抗戦をやめ、小学校区単位の紅白対抗戦に切り替えました。始まるまでは盛り上がり欠けるのではないかと、係員や選手の人数の割振りをどうするかなど、課題が山積みで先が見えませんでした。いざ当日を迎え競技に入ると、身を乗り出し、応援する姿がいたるところで見られ、「やってよかった」という実感がもてました。



田彦東公園「キャンドル」祭り

た びこひがし
田彦東

11月18日(土)に田彦東公園で、キャンドル祭りを開催しました。

今年は、高齢者クラブの皆さんが「ヨーヨー釣り」等のふれあいの場を設け、子どもたちとの交流を図りました。また、開催日の前後には公園のシンボルツリーの銀杏の木にイルミネーションを灯し、祭りの雰囲気づくりにも努めました。

「キャンドル」は子ども会が担当し、子どもたちを交えて250個の色とりどりのキャンドルを作りました。出来上がったキャンドルを「流れ星に願いを捧げる雪だるま」をテーマに芝生広場にディスプレイし、安全対策を講じた上で、参加者全員で火を点しました。残念なことに思い通りにはなりませんでした。交流を深められたかと思えます。今後は、さらに工夫をして自治会内の交流を深めていきたいと思えます。



令和5年度 秋の地方自治功労に係る 叙勲受章

まつもとこうえい
上高場自治会元会長の松本光榮氏が平成11年4月1日から平成31年3月31日まで20年の永きにわたり、地域のまとめ役として自治意識の醸成と地区組織の充実強化を図り、地域の発展に貢献していることが認められ、旭日単光章を受章しました。

つぶやき

「桃栗3年柿8年ゆずの……」古くより言い伝えられた言葉。早くよき花を、よき果実を得るために、接ぎ木という技術を開発させた。台木に、資質の良い枝を移植することでよき親木に成長させる。

自治会が出来てから、20年・30年と経過すると、よき伝統も、革新的な発展も、次の世代によりよきものを、引き継いでいけるかが課題になります。それには、接ぎ木ではないですが、よき台木に私たちが成長することが大切では。

自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載しています。



https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shiminkatsudo/m_shimin/1003739/index.html